

一般質問通告表

平成25年第4回始良市議会定例会（12月2日（月） 午前9時開会）

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
1. 吉村 賢一	1. 公共交通について	公共交通は市民生活を支える重要な役割をもつが、地方は車社会となり一家に1台どころか一人に1台になっている一方、子供も減り、利用者は減少傾向にある。近年になると、JR沿線の外縁部にあたる平野農業地域や中山間地域では高齢者が車を手放せないままマイカー運転を続けている。送迎してくれる子供が家にいなくなる中で高齢者の身体機能の低下に伴う交通事故や逆に免許返上に伴う陸の孤島化が懸念される。 そこで今後の公共交通の在り方について問う。 （1）輸送人員や現在の利用状況は路線別にどんな状況か、採算ベースをどのように考えているか。 （2）利用目的・外出頻度はどの程度か （3）民間バスとの分担・連携はとれているか（乗り換えや時間帯分布） （4）高齢者のバス利用を高めるためにも温泉券とバス運賃支払い券と併用できないか。 （5）乗車率が低い区間はデマンド運行を検討できないか （6）利用者は病院、買い物が多い、そのような要望にどのように対処しているか（あるいは要望を吸い上げる努力をしているか、また乗車率を上げるためにもニーズ調査を行えないか） （7）利用しやすいように自由乗り降りできる路線区間を増やせないか。 （8）今後の公共交通の在り方をどのように考えているか	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	2. 平野低地部の浸水対策について	低地部の宅地化やゲリラ豪雨により水路のみならず足元の側溝が氾濫すること最近も多く聞かれる。 一時貯留機能を果たしていた田畑が少なくなり、雨水を貯留、浸透できる保水機能が低下した。対策として雨水貯留施設や民家でも可能な雨水浸透施設設置の推奨など多面的な方法が考えられるが、全体計画ではどのようなになっているか。 (1) 港町一帯の排水路の水は流れがない。6 月議会で質問した際の回答は「これからも必要に応じて市民からの意見を伺っていきたい。ポンプアップ等の下水道整備計画については現在のところ考えておりません。」とのことであつたがこのままで様子見することなのか？それとも将来計画について考えはあるのか問う。 (2) 岩原塩入の場合、塩入川一部区間は EM 菌の散布もあり水路の悪臭も抑えられているが、浸水対策について問題はないか。岩原西 3 区のカノンホール西の住宅は 20 年以上の歴史があるが当初開発申請の際の指導として盛土など浸水対策の指導はあつたのか。現在も更に西側に新住宅が建っているが適切な建築指導を行っているか。 (3) 松原は松原上自治公民館の辺りは高台になるが運転試験場から西元グラウンド一帯は大雨の時は河川への排水扉が閉じるため内水で浸水する。この浸水対策はどのように検討しているか。 (4) 山野（重富団地を含め）の水路は傾斜が緩いことから所によっては降灰が堆積してヘドロ化している。住民	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	3. 県立体育館誘致について	が定期的な清掃を行っているが、もっと勾配をとるとか、要所に深み凹みをつくり堆積箇所を工夫したらヘドロ除去も楽になると思うがどうか。またこの地域の排水路系統は流れる方向がまちまちであり、側溝も老朽化していることから全体的な見直しが必要と思われるが長期的な観点から整備計画の検討はできないか。 8 月末に始良市は国体開催も睨んだ構想で県立体育館の誘致を県に申し出た。始良市の浮揚策としても市民スポーツの場を広げる意味でも好ましいことである。 (1) 大楠アリーナ、総合運動公園体育館がある中で更に県立体育館ができるなら非常に望ましいことであり、賛成応援したいところである。この件は9月議会で市長の説明があったが、その後の動きがどうなっているか問う。 (2) 港町に誘致という姿勢は変わらないのか。この時、仮に警察署跡地に建てるなら規模はどの程度か。駐車場を含む配置計画はどのように考えているか。 (3) 港町はゾーンニングで商業・工業地域、須崎は工業・スポーツ地域というとりえ方はできないか (4) 須崎地区は15年位前にサッカー場を6面つくりそのメッカにするといった話があった。その後企業進出があるが、まだまだ空き地がある。東岩原交差点からの道路延伸や既存のグラウンドと併せてここに県立体育館を誘致する考えはないか。 (5) 今後の誘致活動展開はどのように考えているか。	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
2. 小山田邦弘	1. 市の成長とごみ問題	(1) 可燃ごみは現状でも限界に近いところで処理が行われている。しかし、都市計画マスタープランでは人口8万人を目指すなど成長する姿が描かれている。今後の可燃ごみ排出量の見込みとそれに対する対策を示せ。 (2) 現在、本市から出される資源物は再処理・再利用するにあたり、処理業者より高い評価を得ていると聞いている。その要因をどのように捉え、今後も見込む市の成長の中でどのようにしてその評価を維持していくのか。 (3) 旧町毎に異なっていたごみの出し方、分別方法、収集の仕方などが始良市として統一されてきた。現在ではどの程度理解され浸透してきていると捉えているか。また今後の課題をどのように捉えているか。	市長
	2. バリアフリーのまちづくり	(1) 今やバリアフリーは福祉ばかりでなく、観光でも注目されるなど、まちづくりの各分野で基本要素となっている。本市におけるバリアフリーの位置付けを問う。(未だ福祉だけか) (2) バリアフリーに関する補助金制度を福祉目的の個人対象ばかりでなく、観光目的で商業施設や飲食施設等も対象に広げ、バリアフリー観光を育成していく考えはないか。 (3) 三重県では、車いすに引き手を装着し悪路や段差をスムーズに移動させられる JINRIKI とい	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
		う器具を災害時の避難器具として導入を進めているが、本市でも導入は考えられないか。	
3. 竹下日出志	1. 子育て支援について	神奈川県茅ヶ崎市では、怒鳴らない子育て練習講座「そだれん」を市民向けと、子どもに関わる機関の職員向けの2つ実施している。 市民向けの講座では、「子どもが言うことを聞かず、子どもを怒鳴ったり叩いたりしてしまう。叱る回数を減らしたい」といった悩みを持つ親御さんを対象に、しつけに関する親子の負担軽減や児童虐待の予防を目指している。 また、市内の子育て関係機関の職員を対象とした講座では、相談や支援に「そだれん」実践を取り入れることで、各機関の職員のスキルが向上することを目指している。本市でも、怒鳴らない子育て練習講座「そだれん」を実施する考えはないか。	市長 教育委員長
	2. 心の健康対策について	近年、さまざまな「心の病」をかかえる人が増えていることから、早期発見と予防のための対策が求められている。 兵庫県西宮市は、自殺対策の一環として、市のホームページに、メンタルヘルスチェック「こころの体温計」を開設している。 パソコンや携帯電話でアクセスし、ストレス度を自己診断できる。チェック方法は、こころの体温計の中の「本人モード」を選択。簡単な質問に答えるだけで、(1)体や病気 (2)対人関係 (3)家庭環境 などに対するストレス度が示される。画面上には「西宮こころのケアセンター」などの連絡先も表示され、電話相談も可能。	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	3. 予防を重視した健康づくりの推進	「本人モード」のほか「赤ちゃんママモード」など5種類が用意されている。本市でも、市のホームページにメンタルヘルスチェック「こころの体温計」を開設する考えはないか。 日本人の死因のトップになっている「がん」。生涯のうちにがんになる確率は、男性の2人に1人、女性の3人に1人と言われる。最近、医学の進歩で「治るがん」も増えている。特に「乳がん」「子宮頸がん」「大腸がん」は、早期発見・早期治療で治る確率が高いがんである。早期に発見するためには、がん検診を受けることが有効である。 平成21年度から一定の年齢に達した女性に乳がん・子宮頸がん検診の、さらに平成23年度からは一定の年齢に達した男女に大腸がん検診の無料クーポン券が配布されている。 本市の受診率の推移と、平成26年度以降の各種がん検診等が受診しやすい体制をどのように考えているか。	市長
	4. 災害に対応する体制の整備	(1)避難所 HUG(H:hinanjyo 避難所、U:unei 運営、G:game ゲーム)は、避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発したもので、HUGとは、英語で抱きしめるという意味を掛け合わせている。 避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを、模擬体験するゲームである。 先の東日本大震災後、開発した静岡県	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
		には全国からの視察が急増しているという。 いつどこで発生するかわからない災害により、被災者が避難所での生活を強いられることも想定した準備をすすめると同時に、住民の意識の啓発も必要と考える。HUGを研究し、始良市でも取り組む考えはないか。 (2) 救急医療情報キット配布事業の「始救あんしんキット」と「始救あんしん携帯カード」を市民に普及する考えはないか。	
4. 湯之原一郎	1. 3町合併の検証について	平成22年3月23日に始良市が誕生して、間もなく4年が経過する。合併までには、多くの紆余曲折があったが、住民のためによりよい市制を誕生させるために、町長・議長会、議会、職員の各種事務担当者会議、合併協議会で真剣な協議がなされ、合併協定が結ばれたと考える。 間もなく、市長、市議会とも1期4年が過ぎ、ひとつの節目を迎えるが、合併協定事項や旧3町の思いが着実に履行され、市民に満足いく市制になってきているのか、検証を加えることも必要ではないかと考えるが、市長の考えを問う。	市長
	2. 市章等の取扱いについて	「始良市の市章・市旗の使用に関する取扱規則」が規定されていることは承知しているが、市章、マスコットキャラクター「くすみん」の使用についてどのような対応がなされているのか問う。	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	3. 森林・林業を基幹とする始良市の振興策について	我が国の成長と繁栄は、緑の大地と一体となった、世界に誇る民俗性があるからこそなし得たものである。そして、この緑の大地を育てたのは森であり、この森をないがしろにしては、これからの我が国の繁栄はないと考える。 市長の森林・林業に対する思い、また、美しい「海」錦江湾を育てる森に対する思いを伺いたい。 また、具体的には、川上対策として「森林の活用や整備計画」、川下対策として「木材の利用拡大」など、森林・林業・木材産業を、これからの市政運営のなかでどのように位置づけて、対応していくのか問う。	市長
5. 里山 和子	1. 国保税一世帯1万円の値下げについて	平成24年度の決算では一世帯当たり10.3%の国保税の増税や一般会計からも同額の法定外の繰り入れをしたが、4%と想定した一般被保険者の医療費の伸びは2.3%にとどまり、実質収支額は約6億円となった。増税しなくとも良かったことになる。 このまま医療費の伸びをおさえ、健康づくりに取り組めば、また、一般会計からの繰り入れを増やせば国保税一世帯当たり1万円の値下げが実現できるのではないか。 国保税が高くて払えず、短期保険証の人が586件、資格証明書の人が272件もあり、年金は削られ介護保険料も上がっており、市民の負担は限界にきている。 健康づくりのためには、保健師をもっと増やしたり財政調整基金も活用したりして、国保税の軽減に取り組んだらどうか。	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	2. 一般廃棄物処理施設運営管理の包括的民間委託について	11月11日、市民福祉常任委員会が開かれ、一般廃棄物処理施設運営管理の包括的民間委託についての勉強会が行われた。 あいら清掃センター、あいら最終処分場、あいらクリーンセンターの三施設を「包括的民間委託」方式で検討したということであった。 当初予算で包括的民間委託アドバイザー業務委託料800万円が予算化され、民間委託が検討されていることは市民福祉常任委員会で説明があったものの委託業者も施設を設計、建設したプラントメーカー系列にほぼ決定し、環境施設職員のうち現業職員10名の任用替試験も10月末に終わり、11月9日には面接試験も行われたとの報告であった。 環境保全対策委員会にはこれから報告され、周辺住民にはその後周知期間を設定するということだが、議会全員協議会での勉強会はなぜ行わないのか問う。 3施設を全面的に民間委託にすることは、市民にとって大きな方向転換であり、運営上の課題や問題点として施設のトラブルや予想外の補修によるリスク負担及び費用負担は自治体がすべて負っているし、民間業者は利益優先であり、施設の運営管理や環境保全対策に疑問が残るということである。しかも、職員10人の任用替も必要となるような重大な問題を、議会全体に知らせ、意見を聞くことなく委員会のみの勉強会で終わらせるという事は議会軽視としかいいようがないが、市長の見解を問う。	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	3. 重富駅と駅裏周辺整備について	重富駅は歴史も古く、先日は白銀坂や重富地区周辺の史跡を散策する観光客の姿もあった。 駅のホームや階段に屋根をつけて、雨の日の通勤通学の方々の不便を解消することはできないか問う。 また、吹上庵の交差点から重富駅裏まで広い道路を通し、駅裏を整備し、重富駅から新しい国道１０号線にもすぐに出られるように施策を進めるべきと思うがどうか。	市長